

令和5年度全国学力・学習状況調査 三郷市の調査結果分析と今後の方策例

主な成果 (○) と課題 (▲) 全国差：全国平均正答率との差

小 学 校 算 数

全体の結果 (正答数分布グラフ等からの分析)

- 平均正答率は、67.0%である。
- 平均正答数は、10.7問/16問であり、全国を上回る。※全国10.0問/16問
- 市の平均正答率は、全国差+4.5ポイントである。

学習指導要領の領域、評価の観点、問題形式別結果

- 学習指導要領の領域「Dデータの活用」では、全国差+5.7ポイントである。
- 評価の観点「思考・判断・表現」では、全国差+5.4ポイントである。
- 問題形式「記述式」では、全国差+6.9ポイントである。

問題別結果 (正答率、無回答率からの分析)

- 4**-(3)「示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述する」では、全国差+8.9ポイントである。
- 4**-(4)「二次元の表から、条件に合う数を読み取る」では、全国差+7.6ポイントである。
- 1**-(3)「伴って変わる二つの数量が、比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述する」では、全国差+7.4ポイントである。
- 3**-(1)「( ) を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取ることができる」では、全国差+6.7ポイントである。
- 市の平均無回答率は1.5%であり、全国の平均無回答率3.4%を下回る。

今後の方策例 (※**2**-(4) を例に)

「テープを直線で切ってできた二つの三角形の面積の大小について分かることを選び、選んだわけを書く」  
 令和5年度 全国学力・学習状況調査報告書 (国立教育政策研究所) より

さらに、図形の面積を求めるためにどの部分の長さが必要であるかを判断する活動も考えられる。例えば、下のような、多くの辺の長さが示されている場面において、平行四辺形の面積を求めようとするとき、必要な情報を自ら選び出すことで、公式の理解を深めることができるようにすることが大切である。

